

学校目標・経営方針 「文化の香りがする懐の深い進学校」づくりを進める	
本年度の重点目標	1 学力の向上を図る
	2 スーパーグローバルハイスクールとして、探究する能力と態度を養う
	3 主体性、社会性を育てる
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

本年度の重点目標				年度末評価(平成30年3月30日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	学力向上の推進	①55分授業・ユニット制の有効活用 ②相互授業参観の推進 ③授業改善のための教科会議の積極的な実施 ④シラバス・学習計画表「日立新」各種テストの有効活用	①アンケート評価による達成率80%を目標 ②実施回数 ③実施状況 ④アンケート評価による達成率70%	・55分授業そのものについては、職員生徒ともに定着し評価されている(職員の教育課程全体への肯定的評価は96%を超えている)。近隣の進学校でもユニット制を導入している学校が見られ、効果を上げている。 ・相互授業参観については、参観期間としては、年間1~2ヶ月設定した。しかし、十分な参観者が集まることは少なかった。授業アンケートや相互授業参観による指導方法の改善については、職員の肯定的評価は77%に留まり、成果としては不十分である。 ・アンケートによれば79%の生徒が、「授業で考えをまとめたり、発言する機会がある」と回答した。昨年度よりも5%向上しており、アクティブラーニングが意識され、「主体的・対話的な深い学び」が定着しつつある。ただし職員の96%は、自身の授業に「深い学び」を意識した工夫改善を行っている」と回答しており、生徒の79%と大分開きがある点は問題である。 ・シラバス、学習記録シート「日立新」に対しては、職員、生徒ともにアンケートでは厳しい評価だった。ただし生徒アンケートによれば、肯定的評価は56%となり昨年度よりも7%向上した。 ・土曜学習会を含め、生徒が授業以外で参加する講座は多く、参加率は非常に高い。生徒の92%は、これら進路実現のための学習会や課外の機会が十分設けられていると評価している。一方、職員からは講座、学習会がないと勉強できない、受け身の生徒を作り出していないか、という指摘もある。 ・自習室の利用率は高く、特に1月以降は満席の状態が続いた。	B
		①主体的・対話的で深い学びの実現 ②授業との有機的な関連を図った家庭学習の推進 ③各種講座、学習会、模試への積極的な参加の促進 ④自習室・図書館の有効利用	①②アンケート評価による達成率70%を目標 ③利用状況を中心に評価	・7校時を設置せずに33単位の授業を行えるのは、ユニット制の特色であり、他の有効な方法は現在のところない。今年度も継続することになるが、今年度末のSGHの終了に伴い、検証し改良することが必須である。 ・相互授業参観については、参観する時間的な余裕がない、という声も寄せられている。上効果を意識し、授業の一部分であってもよきから、参観を積極的に推進する必要がある。 ・「日立新」については、記載データ処理の工夫もされており、家庭学習の推進のために有効利用を促す。記入が生徒にとって有効である学年や時期を見定めて、担任の負担感を軽減する「日立新」の利用方法を提案する必要がある。 ・「主体的・対話的な深い学び」を実現するための方策として、授業の一部にアクティブラーニング取り入れ、柔軟に活用する先生が増えた。授業の形式にとらわれず、また、「活動あつて学びなし」に陥ることなく、生徒の脳内がアクティブであることを目指し、生徒同士及び生徒と教師の対話を大切に授業を開発していく。	
2	探究する能力・態度の涵養	①ドリームリアルプラン(DRP)・進路講演会及び「総合的な学習の時間」によるキャリアデザイン探究 ②大学出張講座による学びの深化	①②アンケート評価による達成率70%を目標	・DRPについては、例年並みに延べ110人が体験した。医療系や保育系は増加しているが、他の分野では低調であった。 ・アンケートによれば、93%の生徒が、大学訪問や大学出張講座等、進路目標を定めるための情報提供が提供されていると評価している。 ・講座等に参加した生徒の感想から、将来の自分の姿や学問に対する取り組みに進歩が見られる。 ・総合的な学習の時間が、「進路意識の向上や社会での生き方や在り方を学習する内容で行われている」と評価する生徒は79%であり、今一歩浸透していない。 ・今年卒業したSGH2期生のアンケートによれば、「SGHの取り組みにより論理的な思考力・判断力が高まった」と自己評価した生徒は、3年10月時には93.5%に達しており、3年間の活動により、自身の能力の伸長が実感できたことは評価できる。 ・「周囲と協力・共調しながら主体的に物事に取り組むことができる」と自己評価する生徒は、SGH2期生では、3年10月時には94%に上った。 ・探究活動の評価は、ルーブリックにより実施した。	B
		①「グローバル探究」及び「総学」による論理的な思考力・判断力の涵養 ②探究活動を通じての批判的思考力、問題解決能力、実践的コミュニケーション能力の育成 ③探究学習における生徒の学習意欲向上につながる評価のあり方の研究	①「自分の考えに基づく表現」「仲間との協力による発表」を中心に評価 ②評価達成率80%を目標 ③事後の検証	・DRPは通常のインターンシップよりも、自由に柔軟に職場体験等に取り組みる本校独自の制度である。医療系や保育系以外でも、自ら求めればDRPの対象となる企業や機関があることを伝え、待ちの姿勢ではなく積極的に生徒に呼びかけていく。 ・「論理的な思考力・判断力の育成」は本校SGHの最大目標の一つである。そのため、社会課題としてSDGsを設定し、論文を読むなどの論理力を磨く探究活動を推進していく。この方向性は、SGH後の探究力の探究活動に引き継がれる。 ・SGHはコミュニケーション力を磨くための班活動をしているが、班内でうまく役割分担されていない場合、他者に依存し、論理的な思考力やコミュニケーション力が身につけている、という実感が得られない可能性がある。 ・今後は個人研究を認め、班内においても3年次には個々の研究のめざめることを志向する。 ・探究学習と教科の学習活動の連携が十分でないこと多くの教員から指摘されている。探究科運営委員会を中心に対応し、教科ゼミをブラッシュアップしていく。 ・ルーブリックによる自己評価は十分機能しているが、グループ活動の中で、探究顧問が個々の生徒を評価する難しさを克服していく。 ・探究活動の評価について、ルーブリックを推進する。 ・去年のSGH終了後のカリキュラムを検討決定し、探究科の特徴についてアナウンスしていく。	
3	主体性・社会性の育成	①いじめ防止に向けた取組の推進 ②強行遠足を通じての体力、精神力、社会性の涵養 ③キャリア関連事業の充実 ④学校内外の環境美化活動や施設訪問等、ボランティア活動の充実	①いじめ実態調査 ②強行遠足アンケート評価による達成率80%を目標 ③実行委員会での検証 ④参加者数	・生活状況アンケートによりいじめの把握を行い、いじめ対策委員会でも検証した。思い込みや誤解による事例は見られたが、深刻な状況のものとは認められなかった。 ・同級生のからかいにより、心の傷を長く受ける可能性があるため、アンケートの件数だけではなく内容に十分注意し、日常から生徒の状況を教員が把握する必要がある。 ・生徒の事後感想から、交通講話、進路講話、SGH講演等は、担任の指導もあって生徒達はその意義を理解しており、有用なものになっていると判断する。 ・強行遠足の目的である「日常では得られぬ貴重な体験を得ること」については、男子89%、女子93%が肯定している。例年と変化していない。だが、「強行遠足は素晴らしい行事だと思う」については、肯定派が男子64%、女子72%と、昨年より7%、8%低下した。 ・ボランティア活動については、生徒自治会が全生徒に情報提供を行い、「参加しやすい環境である」と評価する生徒は66%で、足踏み状態である。部活動単位で、地域の清掃や慰問活動などに取り組んできた。	A
				・アンケートによるいじめの事例については、担任、学年、保健相談係、相談員との連携を密にして早期対応に心掛ける。 ・各種講演会は、生徒の意識向上、社会性の育成に役立っており、今後生のからかいにより、心の傷を長く受ける可能性があるため、強行遠足は甲府一高のスピリットであり、安全、無事故で実施しなければならない。効率的な運営とさらなる安全を両立させながら改善していく。 ・自らの計画で、自らの力でどう最も大切な強行遠足の精神が理解されていない面が見受けられる。生徒・保護者に対するボランティア活動は、今後生徒会を中心に取り組み、部を核とした活動も推進していく。	

学校関係者評価	
実施日(平成30年3月23日)	
評価	意見・要望等
3	【シラバスについて】 ・年度始めに各教科の最初の授業で、シラバスについてオリエンテーションを行ったらどうか。シラバスという言葉を使わず、生徒にとってわかりやすい「学習の手引き」「年間計画表」を、せわしなく時間をかけて作っていると思うので。 ・生徒にとって大学に入った折、シラバスを理解できている方が、断然スムーズだと思う。 【進路指導について】 ・進路については、国立私立にとらわれず、生徒の第一希望が叶えられるよう叱咤激励して、個々の能力を引き出してほしいと思う。 ・進路指導については、先生方が大変熱心に指導していることに感謝している。 【その他】 ・生活学習記録の「日立新」が問題になっているが、記入する生徒の声を傾けたら如何だろうか。 ・保護者から満足感をもって肯定的に受け取られていると感じられる。教職員からの評価でも多くの項目で昨年より肯定率が上がっていて、学校全体での教育改善の努力がうかがわれる。 ・先生方が、どんな目標に、どのように取組み、どう感じているのかが大変よくわかった。分かる授業の改善工夫、生徒指導の共通理解、生徒の実態を踏まえタイムリーな進路指導、ホームルーム活動の重視、SGH及び探究科の運営などについて、肯定的な意見が多く表れている。また、肯定的な意見が減少している項目が殆ど無いことは、学校前進の証である。 ・各家庭の大切ご子孫を預かる学校、教員の責任は重大だが、ひとり一人の生徒を自分の子供と捉えて、厳しきの中に慈しみの気持ちをもって教育に取り組んでいただきたい。
	【探究科・SGH】 ・新年度より探究科が3学年揃うので、教職員間、保護者との間で相互の理解があることを望む。 ・SGH4年目、探究科2年目で大変多忙な1年だったと思う。その中で教職員による学校評価で「教職員が意欲的に取り組める環境作り」に対して肯定的な評価が大幅にアップしている。全校一丸となってあらゆる教育活動に取り組んだことを物語る。 ・来年度は探究科3年目、SGH最後の年なので、結果を出さねばならない。しかし、数に表すことのできない評価項目があるので、一喜一憂せず、今まで取り組んだことすべてが成果と考えてほしい。 ・一高は伝統的な精神を引き継ぎつつ、探究科やSGHなど新しい教育システムを積極的に取り入れながら教育活動を推進していくと素晴らしい。 ・行政機関、企業、外国の諸学校と交流し、教育活動に積極的に活用している。 ・(私は)地場産業を生業にしているため、SGHに関連した見学や講習、実習でもっと当社を利用してほしい。 ・SGHの「山梨ブランドサミット」などは、新しい概念での地域との連携協力として素晴らしい具体例になると思う。
	【地域との交流】 ・学園祭の行事の中で、近所からの苦情で中止になったものがあると聞いている。思い出に残る行事なので残念な事例だと感じる。 ・保護者や地域への情報発信を、各種便りやHPで積極的に行っている。紙よりもネットの活用を考えた方がいいか。 ・防災訓練、ミニギャラリー、3部門合同発表会を通じて地域住民とのコミュニケーションを図っている。 【いじめ防止】 ・いじめが殆ど無いというのは、大変よい評価をされるものと思う。 ・いじめ調査等により生徒の実態を密に把握し、全校態勢での問題に取り組んでいることを知り、安心している。いじめに関する事件が起こらぬよう切に願っている。 ・一高には深刻ないじめが無く安心している。「相談できる先生がいる」と思っている生徒が7割近くいるので、今後生徒が気兼ねなく相談を続けたい。 ・いじめに対しては早め早めの対応をして、健全な学校運営を実行している。 【強行遠足】 ・3年間を通じて、強行遠足により何ものにも代えがたい経験ができることは甲府一高の自慢である。 ・強行遠足のような伝統行事は、継続していく必要性を感じる。

備考(1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。